



校長室だより

黒部市立村椿小学校

文責：校長 寺島紀子

令和7年1月31日

第34号

先日1年教室をのぞいてみると読み聞かせの時間でした。学校司書の村椿先生に十二支（えと）に関する絵本を読んでもらったあと、子供たちはしばらく十二支についてのおしゃべりをしました。「わたし、とりどし！」と即答する子がいれば、よく分からず不安げな子も…。「4から12月生まれの人は、みんなとりどし。1から3月生まれの人はいぬどしだね」と先生に教えてもらって「そうなんだ」と、ほっとした顔をしていました。小さなことでも知識が増えるとうれしいもの、まして自分のことならなおさらですね。子供はみんな知りたがり屋さん、学びたがり屋さんです。

学校給食週間※に思うこと ※1月24日~31日

★学校給食は日本の食文化の変化を反映しています

学校給食週間は学校給食への理解と関心を高めることを目的に、全国的に設定されています。1月の給食だよりにも「学校給食の移り変わり」等の記事が組まれていましたね。学校給食は「お腹をすかせている子供とにかく何かを食べさせよう」という時代から、今や「地産地消や各地の食文化についても学ぶ場」へと進化し、日本の食文化の変化や社会情勢を反映したものとなっています。

今回本校では学年別に給食に関する標語やカルタ、給食提供に携わっておられる方々への感謝のお手紙の取組を行いました。6年生の標語を見ると、食材（命）への感謝、生産者やセンターの方への感謝のほか、食品ロスをなくそうといったSDGsの視点からの標語もあり、なるほど！と思いました。

★理想は「好き嫌いなく」ですが、とにかく気持ちよく食べ切ることができれば…

今、NHKの朝ドラで栄養士さんが主演のドラマが放映されていますね。市給食センターの学校栄養士さん（県の「栄養教諭」でもあります）は、学校給食法で定められた基準に基づき、必要な栄養素を十分に計算した上で献立を作成しておられます。とは言え、昔とは違って給食をむりやり全部食べさせることはしないので、子供たち自身に食べたいと思ってもらえるように味や見た目、香り等、さまざまによく工夫された献立が毎日登場します。

また好き嫌いだけでなく、体格差、その日の微妙な体調等で、一人一人の食べる量が変わります。本校ではその都度、子供の自己申告を尊重して量を加減し、ランチルーム全体としてできるだけ「残食ゼロ」を目指しています。

量を減らしてほしい子は「いただきます」の前に手を挙げて、最寄りの先生に相談します。余った分は食事中に先生方が「いりませんか？」と回り、「ほしい」「少しなら食べられます」と手を挙げてくれた子に追加します。

理想を言えば「どの子も好き嫌いなく食べてほしい」のですが、少なくとも「自分で量を決めて箸をつけ始めた分は気持ちよく食べ切る」ことができればよいのではないかと、学校内で共通理解して取り組んでいます。

★食事のマナーはまず家庭から…

「気持ちよく」という点では、食事のマナーも大切だろうと考えます。「食器を手に持って食べる」「長い髪の毛は後ろに結んで、皿やお椀に入らないようにする」のは、見た目的にも気持ちがよいものです。「箸を正しく使う」は、食事を効率的に頂けるだけでなく、食べる姿が美しく、一度身につけると一生役に立つ躰（しつけ）です。こうしたことについては小さいうちに各ご家庭でも根気強く取り組んでいただけたらと思っています。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名 ()



校務助手の村井さんへの感謝の手紙（2年生）



黒部製パンさんへの感謝の手紙（3年生）



給食カルタの発表（1年生）



村椿小学校の子供が考えたメニューが登場しました！

学校給食週間の一環として「まかせてね今日の給食 黒部市の6年生が考えた献立」があり、本校からはI・Sさんの考えた「とんじるで温まる冬ぴったりに！メニュー」が28日（火）に登場しました。これは去る9月の家庭科



の授業で給食センターの石橋栄養教諭さんに

教わりながら考えて応募した献立だったとのこと。まだまだ暑い9月にこんな素敵な（そしてちょっとシブい）献立を考えていたのですね！カレイの骨も柔らかく、丸ごと食べられるようになっていました。I・Sさんも「とてもおいしかった」と満足げでした。

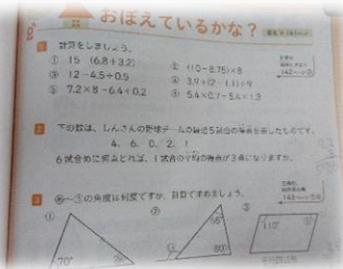


シリーズ「教室におじゃまします」1月25日（火）5年算数科の巻

教室の前中央にあるヒーターを囲むように半円形に机が配置され、学び合いの雰囲気ぐっと高まっている5年生教室です。この日は教科書の「おぼえている



かな」のページを開き、問題を次々と解いていきます。「計算をしましょう」とある問題を山本先生は「計算のくふう」と黒板に書き換え、ポイントを明示しました。計算途中でも、答えが出そうと思った子から次々と手を挙げて「予約」します。ネームプレートの貼られた問題に順にやってきては自分の考えた答えを書いていきます。



こうした学習の流れが定着している

のだなと、見ていて分かりました。学習がテンポよく進んでいくのが小気味よく感じられました。また、分からない問題はすぐそばの友達に相談したり、黒板に書く前にもう一度友達のノートを見せてもらったりと、自然な形で学び合う様子が見られ、落ち着いた学習の様子が見られました。



さて、計算の工夫は計算の順序ときまりを押さえて行います。今回は①左から順に、②（ ）を先に、③×÷は＋－より先に、といったことを押さえればどれも正確に解ける問題でした。黒板に書いた子が口頭でも発表し、答えを皆で確認しました。どの子もよく解けていました。中身の濃い時間でした。



<おまけのひとりごと>今人気の料理研究家と言えばどなたでしょう？ 私はかつて「小林カツ代さん」の大ファンでした。レシピ本やエッセイ集等いろいろ買って読んでいました。その小林カツ代さんが「時には子供に献立を任せてみましょう」と、ある本で書いておられました。なんでも年子（姉弟）のお子さんとスーパーへ行き「2人で今日の献立を考えて買い物をしてちょうだい」と言うのだそう。小林さんいわく「子供は料理を作ることはまだできなくても、献立を考えて材料を買うこと（しかも予算を子供なりに考えて）はけっこう上手にできるものです」と。自分たちで考えた献立が食卓に並ぶと大喜びでしょう。私も何度か実践しました。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名 ()